

〔官展改組と春陽会〕

・『時事新聞』 昭和十一年五月七日 (27)

反帝展派の中堅分子 街頭に近作を陳列

第一回新宿プロムナード美術展

美術界に現る新動向——象牙の塔を出る美術



写真は第六会場「ヂアスミン」。左より鈴木信太郎氏画《桃》、小寺健吉氏画《薔薇》、児島善三郎氏画《鐘鏤》。ほか藤田嗣治氏画《メキシコの姉妹》、高間惣七氏画《朝の温室》。

新帝展を繞る美術界の紛糾は何時果てるともなく、反帝展派の二科会、春陽会、独立美術、第二部会は最近街頭に進出し直接社会大衆にアツピールせんとしてゐるが、昨五日より之等諸団体は新宿一流喫茶店と提携して、数百点の近作を陳列、第一回新宿プロムナード美術展覧会を開催してゐる。

*傍線引用者

この新宿プロムナード美術展覧会の主旨は、潤ひのない都会にこの絵画美術によつて潤ひを与へ美化するといふにあるが、美術家側から見れば帝展を失つた各団体が自己の作品を社会に紹介するために、喫茶店側から見れば店内を裝飾するために提供されたものである。今後美術界の進む新動向としてこの傾向は各方面より注目されてゐる。

同美術展覧会は新宿の一流喫茶店——第一会場「不二家」、第二会場「モナミ」、第三会場「櫻製菓」、第四会場「ノヴ」、第五会場「大山」、第六会場「ヂアスミン」、第七会場「エルテル」、第八会場「武蔵茶廊」、第九会場「東京パン」、第十会場「中村屋」——を会場とし、同展覧会の出品者は、帝展会員 中澤弘光氏、主線美術協会 高間惣七、第二部会員 大久保作次郎、小寺健吉両氏以下十五名。二科会員 藤田嗣治、東郷青児両氏以下六名、会友 鈴木信太郎氏以下三名。春陽会 木村莊八氏以下四名。独立美術 児島善三郎、林武両氏以下十六名。遺作特別出陳八名の六十名近くの各団体中堅メムバーを網羅し、数百点を陳列するといふ大展覽会であり、既に銀座裏通り開催された二部会の展覧会と、近く荏原区小山町に開かれんとする同種

1936 7 May

昭和 11 年 5 月 7 日 「象牙の塔を出る美術」——「官展改組と春陽会」(時事新聞)

の展覧会と共に、漸く美術家連が従来の美術の象牙の塔を出でんとする傾向を示してゐる。

同展覧会主宰者 新宿洋画クラブの大城俊彦氏は語る。

「美術が街頭に進出し社会大衆にアツピールすることは必要なことです。美術の普及文化的宣伝のためにこのプロムナード美術展は益々発展させずツト継続さして行きたいと思つています。こんどのは十四日までの十日間ですが、年に春秋二回づつ開く積りです。」